

平成18年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 サワラ

学名 *Scomberomorus niphonius*

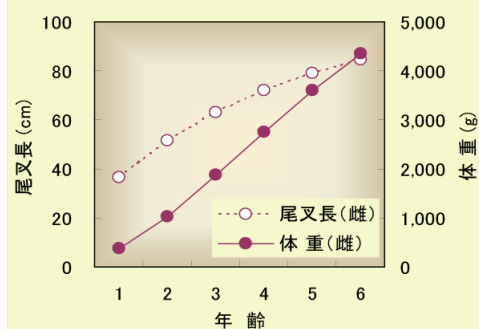
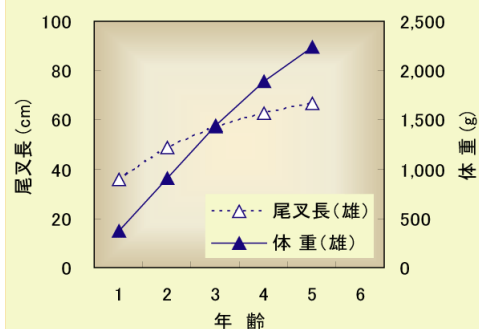
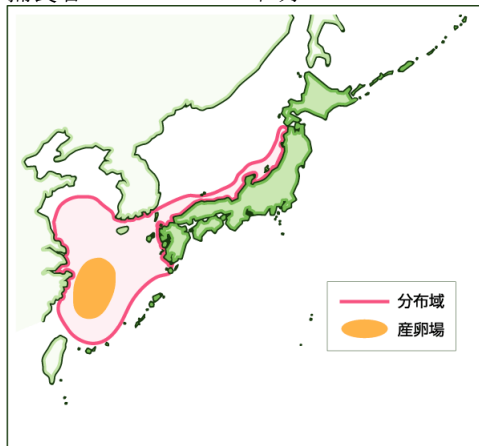
系群名 東シナ海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 約6歳
成熟開始年齢: 1歳(一部)、2歳(大部分)
産卵期・産卵場: 5～6月に産卵、産卵場は東シナ海の中央部～中国沿岸
索餌期・索餌場: 夏～秋季、黄海・渤海、日本海など
食性: 稚魚期以降に魚食性
捕食者: 不明

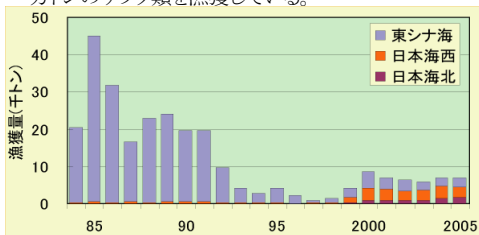


漁業の特徴

東シナ海、日本海に生息するサワラは主に大中型まき網、定置網および曳縄などにより漁獲される。大中型まき網のサワラの漁期は12月～翌年4月の冬季であり、12月に済州島西沖で漁獲され始め、徐々に漁場が南へ移り、東シナ海中央部および対馬海峡で漁獲される。1998年以降、日本海におけるサワラの漁獲量が増加している。また、中国漁船が漁獲したものの一部が日本へ輸出されている。

漁獲の動向

漁獲量は1984～1991年は20千トン前後で推移していたが、1992年以降に減少して、1997年には822トンまで落ち込んだ。1998年以降、漁獲量が増加し、2000年には8,548トンとなった。2001年には再び減少したが、それ以降は横ばいとなり、2004年には6,786トン、2005年には6,965トンであった。韓国は2005年に34千トン、中国は2004年に38万トンのサワラ類を漁獲している。

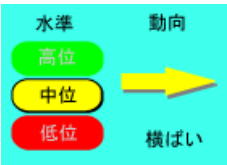


資源評価法

日本と韓国の漁獲量、東シナ海で操業する大中型まき網のCPUE(漁獲量/有効努力量)の相乗平均値を、資源の増減を示す資源量指標値と考え、これらの情報に基づいて資源水準と動向を判断した。中国の漁獲量は用いなかった。

資源状態

日本と韓国の漁獲量の推移を見ると、過去22年間に於いて漁獲量の水準は中位にある。資源量指標値の1994年以降の経年変化をみると、1997年まで減少傾向が続き最低水準となった後、2000年にかけて増加した。2001年には再び減少したが、その後は横ばい傾向にある。したがって、資源水準は中位、動向は横ばいと判断した。



管理方策

資源水準は中位、資源動向は横ばいであり、日本の漁獲量は韓国・中国の漁獲量に比べてはるかに少ないので、現状の漁獲圧を続けても良いと判断した。したがって、資源量指標値の変動傾向に合わせて漁獲することが妥当である。

	2007年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	6,600トン	Cave5-yr	-	-
ABCTarget	5,200トン	0.8・Cave5-yr	-	-

資源評価のまとめ

- 資源量指標値は1997年に最低水準となった後、2000年にかけて増加した
- 2001年には再び減少したが、その後は横ばい傾向にある
- 日本と韓国の漁獲量の水準は過去22年間に於いて中位
- 1kg以下の若齢魚が漁獲物の大半を占める

管理方策のまとめ

- 資源量指標値の変動傾向に合わせて漁獲する
- 日中韓の3国による国際的な資源評価、管理体制の構築が急務

資源評価は毎年更新されます。